

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
峨	ガ		峨	山 峨	十七帖		峨 峨	峨	豊野指歸
峻	シュン けわしい たかい		峻	峻			峻 峻	峻	杜家立成
島	トウ しま		島						
嶋									嶋
寫									
嶼									
島			島						島
峰	ホウ みね						峰 峰	峰	
峯			峯	峯	峯	峯	峯 峯	峯	豊野指歸

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
峨	峨	峨	峨		峨		峨					峨
峻	峻	峻	峻				峻					峻
島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
嶋	嶋	嶋	嶋	嶋	嶋							嶋
寫	寫	寫	寫	寫	寫							寫
嶼	嶼	嶼	嶼	嶼	嶼							嶼
島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰
峯	峯	峯	峯	峯	峯	峯	峯	峯	峯	峯	峯	峯

【島】JIS漢字に5つの字種が登録され、康熙字典に4つの字種が登録されている。「嶋」が正(統)字(体)。

【峰・峯】異体字で部品の位置が異なる移構(動用字)。説文解字の大徐本にはあるが、段注本には記載がない。大徐本にある字体は「峰」ではなく「峯」。我が国でも中国でも「峰」を

常用漢字として選んでいる。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
嵯 人①	サ けわしい		嵯 説文・山部	嵯 曹全碑			嵯 劉碑造像記	嵯	二荒山碑文
嵯 ②									
嵩 人①	スウ かさ かさむ たかい		嵩 郭店楚簡 嵩 新附・山部	嵩 礼器碑	嵩 澄清堂帖	嵩 集字聖教序	嵩 元祐墓誌 嵩 雁塔聖教序	嵩	王勃詩序
							嵩 寇演墓誌		
嶋 人①	トウ しま							嶋	王勃詩序
島 教3 常①	トウ しま								
嶋 ②									
嶋 ④									
嶋 ④			嶋 説文・山部					嶋 五経・山部	
嶺 人①	レイ リョウ みね		嶺 新附・山部	嶺 集字聖教序	嶺 元祐墓誌	嶺 雁塔聖教序	嶺	嶺	王勃詩序
巖 人①	ガン いわ いわお がけ けわしい		巖 説文・山部	巖 魯俊碑	巖 集字聖教序	巖 元祐墓誌	巖 雁塔聖教序	巖	王勃詩序
巖 人②							巖 張猛龍碑	巖 道因法師碑	
巖 ④							巖 鄭義下碑		

【嵩】康熙字典に「嵩」の古文として「崇」が載っている。別に「崇」も親字として載っているが「嵩」は載っていない。
【巖】中国では「岩」を用いる。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
嵯 筋切		嵯 山 10	嵯				嵯					嵯 中国
											嵯 台湾	嵯 香港
嵩 粘葉本朗詠		嵩 山 10	嵩	嵩 坊っちゃん								嵩 中国・台湾
嵩 粘葉本朗詠		崇 古文										嵩 香港
嶋 粘葉本朗詠	嶋 節用	嶋 山 11	嶋	嶋 陸軍								嶋 中国
島 藤原行成	島 節用	島 山 7	島	島 陸軍			島	島	島	島	島	島 台湾
嶋 元暦萬葉⑩				嶋 坊っちゃん								嶋 香港
嶋 元暦萬葉⑫		嶋 山 14										
嶋 墨流本朗詠		嶋 山 11					嶋					
嶺 元暦萬葉①	嶺 節用	嶺 山 14	嶺				嶺					嶺 中国
嶺 元暦萬葉②		嶺 古文										嶺 台湾
巖 近衛本朗詠	巖 節用	巖 山 20	巖									巖 中国・台湾
巖 元暦萬葉①												巖 香港

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
巧	コウ たくみ 常①		巧 巧	巧 巧	巧 巧		巧 巧	巧 巧	甕督指歸
			巧	巧					
左	サ ひだり 教1常①	左 左	左 左	左 左	左 左	左 左	左 左	左 左	王勃詩序
		左 左	左 左	左 左			左 左		
		左 左	左 左				左 左		
差	サ さす 教4常①	差 差	差 差	差 差	差 差	差 差	差 差	差 差	法華義疏
		差 差	差 差	差 差	差 差	差 差	差 差	差 差	
		差 差	差 差				差 差		
己	コ おのれ 教6常①	己 己	己 己	己 己	己 己	己 己	己 己	己 己	法華義疏
		己 己	己 己	己 己			己 己		
		己 己	己 己				己 己		
巳	シ み 人①	巳 巳	巳 巳	巳 巳	巳 巳	巳 巳	巳 巳	巳 巳	甕督指歸
		巳 巳	巳 巳	巳 巳			巳 巳		
		巳 巳	巳 巳				巳 巳		

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
巧	巧	巧	巧	巧		巧	巧	巧	巧		巧 中国・台湾
											巧 香港
左	左	左	左	左		左	左	左	左		左 中・台・香
差	差	差	差	差		差	差	差	差		差 中国
											差 台湾・香港
己	己	己	己	己		己	己	己	己		己 中・台・香
巳	巳	巳	巳	巳		巳	巳	巳	巳		巳 中・台・香

【左】説文解字では「左部」に分類されている。
【己・巳・巳】「己・巳・巳」はまったく異なる字種だが混同されやすい。冒険家の植村直己さんやアートディレクターの浅葉克己さんなど「己」を「ミ」と読ませる人もいる。「巳」は「イ」という音を持ち「目・以」と関係がある字らしい。

「目」と「以」は異体字であり、農具の鎌の一種の象形らしい。筆者は「目・以・巳」を次のように推測する。「目」は鎌の歯を下向きにして正面から見た形。「以」は鎌を歯を左にして横から見た形で、右の「人」の部分は人ではなく鎌の柄ではないだろうか。「巳」は鎌の歯を上にして正面から見た

た形で作業の終わりを意味し、そのために「すでに・のみ・やむ」という意味をもつと考える。漱石は「巳」を「巳を得ん」という使い方をしている。